

# カムイワッカ湯の滝 一の滝以奥の再利用について

斜里町  
知床斜里町観光協会

## 1. 経過

- ・ 2005～2010（H17～22）年度、道道知床公園線・知床五湖～カムイワッカ間の落石防護工事、70日間のシャトルバス運行。2005（H17）年度以降、カムイワッカ～知床大橋間は通行止め。
- ・ カムイワッカ湯の滝で落石の恐れがあるとの指摘を受け、2006（H18）年度以降、2の滝より上部区域を立入禁止。
- ・ 2020年7月、参議院議員長谷川岳氏（総務副大臣）との懇談会において、知床斜里町観光協会より、カムイワッカ湯の滝を2005年以前のように4の滝まで利用できないか、要望が出される。林野庁、環境省、北海道が前向きに検討する旨を懇談会の中で回答。
- ・ 2020年8～9月、林野庁、環境省、北海道、斜里町、観光協会などで、意見交換を行う。地質専門家を交えた現地調査も実施。
- ・ 2020年11月、部会事務局で利用範囲拡大に向けた試行事業の検討を開始。

## 2. 基本的な考え方

- ・ カムイワッカ湯の滝は、行政機関による整備を伴っていない自然発生的な観光地として発展したため、リスク管理や管理責任の所在が曖昧であり、行政機関の連名による現地看板で「自己責任による利用」を求めてきた。
- ・ しかしながら、2005年には10万人もの観光客が利用する「一般的な観光地」とみなされるようになっていたのも事実であり、増水、落雷、落石、クマといった様々な自然のリスクに対して、観光客に「自己責任」を求める限界が生じてきたことや、特に具体的な「落石の恐れ」への懸念から、2006年以降、2の滝より上部区域を立入禁止とせざるを得なくなった。
- ・ 一方、カムイワッカ湯の滝は、次のような魅力や価値が認められ、知床の中でも資源性が極めて高い現実がある。
  - ① 温泉が川に流れ込み、上流に上るほど温かくなり、入浴に適する温度になるという、国内はもとより世界的?にも貴重な川であり、かつ、そこでの沢登りが比較的容易に体験できること
  - ② 温泉を生む硫黄山は、大量の溶融硫黄を噴出する世界唯一の火山（世界三大奇火山の一つ）であり、その温泉が流れ込むカムイワッカ湯の滝では、強酸性環境下に生きる温泉バイオマット（緑の滝）を見ることができること
  - ③ かつて硫黄の採掘がおこなわれた遺構が残っており、これまでの知床のイメージとは異なる歴史や地質を体感できること

- ・ そのため、次の4点に十分に留意しながら、利用範囲の拡大に向けて、検討を重ねていきたいと考えるものである。
  - ① 未整備な自然地域であるため、自然現象に由来する様々な潜在的なリスクを可能な限り客観的に利用者に伝え、そのリスクを認知・認識・同意した人が利用できる方策を検討すること
  - ② 前項の突発的な自然的リスクの他に、転倒・滑落による人為的な怪我のリスクを低減させるための一般的な安全対策の周知に努めること
  - ③ シャトルバスの利活用やアクセスコントロールの取り組みと連携し、交通や駐車場所において従来以上の混乱が生じないように十分に留意すること
  - ④ 利用範囲の拡大は知床のブランド価値や魅力の向上に繋げるものであること

### 3. 検討の方法

#### (1) 検討の期間

- ・ 2021～2023（R3～5）年度を検討期間（試行事業実施期間）と設定する。
- ・ この間に試行事業を行い、利用者及び管理者双方の視点で多角的に検証しながら、本格的な運用体制の構築をめざす。

#### (2) 試行事業の実施に向けた検討の項目

- ・ 基本的な園地・事業運営体制の整理
  - ・ 事業主体、用地、拡大範囲、権限、会計、費用負担、事務局等
- ・ 事業運営の具体的な仕組みや現地管理の方法の検討
  - ・ 安全周知、同意承諾、保険、安全ギア、利用者負担金、監視員配置等
- ・ その他
  - ・ 施設整備等

#### (3) 試行事業のイメージ

- ・ 前項（2）の検討項目が一定程度整理・合意された場合には、以下の案をベースに実現可能性を検討し、事業案を試行する。
  - ① 閑散期におけるガイド事業者によるモデル的試行事業
  - ② 閑散期のマイカーアクセス期間における個人参加型の試行事業
  - ③ カーフリーデイズ期間（シャトルバス運行期間）が設定された場合における個人参加型の試行事業

### 4. 今後の進め方

- ・ 令和2年度第2回エコツアー検討会議において、協議経過や検討項目の整理状況、試行事業案を報告する。
- ・ 本部会及び第2回エコツアー検討会議での協議結果を踏まえ、次回の部会において、来年度の具体的な取り組み内容を決定する。